

令和8年度上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第2回こども・若者部会 第2回こどもサービス連絡会 合同開催	参加者数	92人	会場	伊那市防災 コミュニティセンター 多目的ホール
	日時	令和8年9月3日(木) 10:00～12:00				
主 題 マ	(1) 会長挨拶 (2) 【研修】学童期の療育における基本的な支援の姿勢について (3) その他					
	(1) 会長挨拶 前回のこどもサービス連絡会で共有された放課後等デイサービスの課題を踏まえ、本日の研修を通じて、子どもの成長や自立を見据えた支援や目の前で起きている課題解決に向けた支援者の姿勢を学ぶ機会としたい。また、関係機関との連携に生かせるようにしていただきたい。 (2) 【研修】『学童期の療育における基本的な支援の姿勢について』～社会性の誤学習を強化させないために～ 講師：日本相談支援専門員協会 顧問 ○現代の背景とリスク 現代は、コストパフォーマンスやタイムパフォーマンス、プロセスより結果を重視し、自らは「ボタンを押すユーザー」として振る舞う「システム社会的な生活」が主流である。このシステム社会とは真逆の存在である「こども」を育てる親は、孤立し不安や不安全感を抱えやすい。その結果、多くの子どもが親子関係におけるリスク環境に置かれており三人に一人は愛着障害の傾向があるという知見もある。 ○支援者としての正しい距離感や姿勢 支援者は子どもにとっての「安心の出発基地・止まり木」になること。ここで重要なのは、取り替え不可能な親子関係と代替可能な社会性形成の場である支援者を明確に整理することが重要である。親しかカバーできない愛着（アタッチメント）を支援者が代替しようと安易にプライベートな距離を縮めることは誤学習につながる。 ○誤学習を強化させないスタンス 「手厚い支援」とは、マンツーマン対応のことではない。重要なことは、どうしたら子どもが『人』に依存しなくても楽しんでいられるかを試行錯誤することが支援であり、目指すべき姿は「誰かがいつもそばにいても自ら過ごせる」力を育てることである。そのためには、過介入や過干渉を控え、子どもからのサインに瞬時に対応できることである。 ○もっとも重要な社会性は「相談する力」 学童期において最も重要なのは、「相談する力（相談して打開していく解決力）」を育むことである。支援者は、操作コントロールしようとするのを捨て、一緒に作戦を立てて意思決定できる「伴走型の支援」といえる。子どもから相談したいと思われる支援者になれることが大切な視点である。 ○放課後等デイサービスにおける活動のプロデュース力 最も重要なのは、特性から何気なくしたくなる行動を集団の中で利他的に役に立てる『役割やミッション』として形にすることである。学童期に友達が真剣に活動する姿に触発され役割を通じて友達や集団と『関わりたい』を増やす。子ども本人の内発性を引き出す環境や組み立てができる場が放デイや療育である。					

	(3)その他 ・性の学びあいネットワーク 有志により設立された団体。性に関する課題を背景に、幼少期から適切な人間関係や距離感を学ぶことを目的に、研修会や出前講座、個別事例へのアドバイス等を実施している。10月9日(木)10:00～福祉まちづくりセンターにて性の多様性やLGBTQについて学ぶ学習会を開催予定。
まとめ	講義を通じて、子どもの「社会性の誤学習」を防ぐことの重要性を理解できた。また、子どもの特性に応じた『適切な距離感』を保ち、『自ら考え(内発性)』、『相談』し、『課題を解決する力』を育むことが療育において重要であると学んだ。
次回	令和9年2月5日(金)10時～12時 場所：未定